

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600048		
法人名	有限会社あすとぴあ		
事業所名	グループホーム望喜家		
所在地	大分県臼杵市大字江無田1100番地		
自己評価作成日	令和3年4月16日	評価結果市町村受理日	令和3年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://fukusuke1135.wixsite.com/nonkiya>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者本位」ができる施設を目指していること。食事、起床、就寝時間の柔軟な対応や、利用者様の要望に沿った対応をしている。コロナ感染症対策の徹底をして。職員や利用者様に手洗いの徹底、外出時のマスクの徹底をしている。利用者様が「ここで生活してよかった」と心から喜んでもらえるケアを目指していること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念は毎日朝礼時に唱和され、職員一人ひとりが理念をもとに日々のケアに取り組んでいる。理念とは別に年間目標を掲げ実践している。
 ・3食とも専門スタッフによる手作りの食事を提供し、調理の音や匂いで五感を刺激し、家庭的な雰囲気を感じている。
 ・職員から出た提案は全体会議で全員で話し合わせ、全員で決定している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を声を出して確認し合っている。また、会議の際にも、理念をもとに判断決定している。	理念は事務所に掲げられ、毎朝、朝礼時に唱和している。家族から感謝の言葉をもらえた時に理念が生かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係で、地域の方々との交流機会が減っている。祭りなどの定期的なイベントも開けていない。	コロナ感染対策上、祭りや交流会は開催できないが、区長や元区長とは安否を確認しあっている。地域の美容師には定期的に来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や福祉委員に施設の理解と合わせて認知症の理解を促すような話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で運営推進会議を定期的に行えていないが、開催できた時には、参加者に報告や、意見をもらい、サービス向上に活かしている。	昨年10月から開催はできていないが、文書で報告書を送付し、それに対するの意見や感想は返送され、ケアに生かされている。記録にも残されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加していただき、取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築けるように取り組んでいる。	福祉課の職員とは、コロナ対策や、利用者を守る方法など、アドバイスを受けている。また、フェンス設置についても意見をもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて身体拘束をしないケアについて確認をしている。日中玄関の施錠はしていないが、テラス側にフェンスを設置している。	身体拘束については、毎月話し合ってきた。不適切な言葉かけについても会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて虐待しないケアについて確認している。利用者への言葉遣いも日頃気を付けている。		

事業者名:グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの関係で最近研修など行えていないが、日常生活自立支援について、利用者が活用していることもあり、担当者と話し合いを繰り返している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明し、不明な点等について確認をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族と連絡を取り、意見を頂けるようにしている。	コロナ感染対策上、年1回の家族会は開催できていないが、窓越しの面会時や電話で要望や意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員指導の委員会制度を設け、全体会議において、改善案等を提案し、全員で決定する機会を設けている。	職員の意見を基にフェンスを設置したり、朝の体操を実施できた。職員から意見が出ると全体会議で協議し、全員で考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もよく現場に来て、状況の把握や管理者と連絡を密にとり、職場環境整備に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を充実させている。施設外研修においても、可能な限り、積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係で同業者との交流機会は減っているが、機会があれば、勉強会をするように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や、家庭への訪問により、生活状況等を把握するようにしている。また、また施設に来所していただき、ほかの利用者との関係づくりや、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているケアを聞き取り、職員同士で理解を深め、実現していく方法を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や、家族にひつようなサービスを見極めて、柔軟な対応を行っている。場合によってはほかの事業所のケアを参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は年輩者であり、教えていただく姿勢を持ち続けることを意識付けしている。声掛けに配慮したり、常に利用者に感謝を伝える機会を確保している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の状態をこまめにご家族に報告している。ご家族に向け利用者の状況を伝えながら、一緒にケアをしていく方向性付けを確保している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より通っていた美容院を利用したり、お墓参りを大切にしている利用者の習慣も大切にしている。	コロナ禍で面会は窓越しのみなのでなかなか訪ねてもらうのは難しいが、電話や手紙、年賀状で継続できるようにしている。なじみの美容師には来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間は職員も食堂で過ごし、会話を持つようにし、利用者同士の関係が円滑になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了した利用者の家族からの相談に乗ったり、状況を確認するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や生活習慣、趣味を確認し、支援の中で取り組むようにケア会議で話し合っている。また、生活する中での以降の表出を大切に、支援に活かす方向で話し合っている。	家族から以前の様子を聞いている。夜勤職員が一人の時など、本音を話してくれることがある。聞いたことは職員全体で把握できるように記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント等において、これまでの生活を維持できるように努めている。また、これまでの地域住民とのつながりも大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムの把握や不安になる時間帯などを把握し、不安の軽減や、個別ケアの充実に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を付きに1回開催し、一人一人に適したケアを考え、職員全体で意識の統一の元、支援をするように取り組んでいる。	担当職員が毎月家族に対して手紙を送っている。その中で意見を聞き介護計画に生かしている。家族から筋力低下の危惧があり、計画の中に歩行訓練を取り入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを中心としながら、日々の様子を個別介護記録に記載するようにしている。また、ケア会議においても、日々の記録を中心に話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望することをご家族様とも連携を取り、柔軟に対応できるように努めている。		

事業者名:グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などにおいて、市職員、地域包括支援センター、民生委員、区長などに参加いただき、理解と協力関係を気付いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけの病院への通院を入所後も継続している。通院には職員が同行し、日常生活の様子を医師に伝えている。	ほとんどの人がもともとのかかりつけ医となっている。受診は日ごろの様子を把握している職員が援助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を配置しており、常に利用者の健康管理や、医療面での相談助言をうけ、対応を行っている。利用者の体調によっては、病院につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の様子や情報を医療機関に提供し、医療機関や家族と状況などの話をし、退院時の連携を良好に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応方法について話し合い、確認を取り、事業所のできる範囲について言語化し、理解を求めている。	家族に対しては入居時に重度化や看取りに対する指針を説明している。看取りの経験があり、職員に対しても講師による研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急手当について、研修会を開催している。また、夜勤時の緊急対応マニュアルを作成し対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、利用者と共に、避難訓練を行っている。また、消防署の協力の元、初期消火訓練を行っている。	市の福祉避難所に指定されていて、ペットや備蓄についても準備されている。火災訓練は年2回実施しているが、今後、自然災害についての訓練も、地域の人とともにやりたいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士での意見交換にて、言葉遣いなどに注意を払っている。個人記録など、情報が漏れないように、常に注意を払っている。	利用者とはできるだけコミュニケーションをとり、個性を尊重し、プライバシーを損ねない対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話に耳を傾け、想いを表出できるような声掛けを心掛け、自己決定できるように勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によって食事、起床時間を柔軟に対応して、日々のプログラムは用意しているが、一人一人の状況に合わせてながら、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が定期的に施設に来ており、カットしている。また、希望があれば、馴染みの美容室にお連れして、カット、パーマをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中職員が利用者の間に座り、楽しく食事ができるよう、顔色もうかがいながら過ごしている。また職員と一緒に台所へ入り、食事の片付けも行っている。	3食ともに専門のスタッフによる手作りの食事を提供している。誕生日や、行事食も楽しみの一つとなっている。おやつにどら焼きを焼いたり団子汁の団子をのばすなど一緒にできることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食3品～5品を目安に提供し。季節を感じられるこんだてにしている。食事時間も柔軟に対応し、水分量も職員間で情報の共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は見守り対応し、介助の必要な方は、それぞれの能力に応じた介助、見守りを行っている。義歯洗浄は2、3日置きに実施している。		

事業者名:グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄の頻度や、リズムを確認し、声掛けやご案内を行っている。利用者のトイレサインを見逃さないようにしている。	排泄パターンを把握して、日中はほとんどの人がトイレでの排泄が可能となっている。夜間も時間を見計らい、安眠を妨げないよう工夫しながら支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最低二日に1回は乳酸菌飲料の提供、毎日体操の時間を設け、体を動かすことへの参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前午後と入浴時間を設け、週3回以上の入浴を目標に実施している。希望があればいつでも入浴できるよう、柔軟な対応をしている。	2ユニットそれぞれにある浴室のうち、利用者が選んだ浴室での入浴を行っている。決まった職員の声掛けにしか応じない利用者に対しても柔軟な対応で支援することできちんと入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅より馴染みのものを持ってきていただき、安心して安らげる空間づくりをしており、就寝時間も特には決めず、一人一人の希望就寝時間に柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更があった場合は、申送り、引継ぎノート等を活用している。しっかり服薬出来ているか、服薬時も最後まで見守るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や、イベントを施設内で実施し、家事なども利用者と一緒にやり、生活に張りを作れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近所の散歩が主であるが、買物やドライブ等、少しでも利用者の意向を尊重して対応している。	コロナ禍の中での外出は難しいが、庭を散歩したり、ドライブに出かけ、車窓からの景色を眺めたりしている。外出時の写真を家族に送り、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、少額の現金を所持されている方もいる。購入したいものがあれば、預り金よりお渡しし、いつでも使用できる環境にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を自ら書いていただいたり。ご自分の携帯を所持されている方もおり、希望があれば、施設の電話にてご家族に連絡とれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーに季節ごとの飾りをつけたり、行事ごとの写真などを壁に貼り鑑賞して頂いている。食事時の席の配置も、利用者に配慮し、工夫している。	フロアーには行事や外出時の写真が貼られ、ソファでくつろぐ人や一人でゆったり過ごす人、テレビを見る人、食後のかたづけを手伝う人など、それぞれに好きな時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれる時間も各々あり、利用者同士で居室を行き来される事もある。利用者同士が気軽に話せるようテレビの前にくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家具など長年使い慣れ、見慣れたものを持ち込まれ、気持ちが落ち着くよう、ご家族の写真なども壁に飾り、心地よい生活が送れるように支援している。	居室に夫の遺影を飾ったり、たんす、時計、布団など以前自宅で使用していたなじみのものを持ってきて、居心地の良い自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクのある方の居室にはクッション性のマットを敷いたり。居室のドアにわかりやすく名前を記入し、ご自分でもわかるように配慮している。		